

# コバノミツバツツジ



上中谷林道にて

(撮影：桐原佳介)

## ■南部町には3種類

ソメイヨシノの開花時期とほぼ同調して、目に優しいピンク色の花を咲かせるコバノミツバツツジ。そっくりさんが多いミツバツツジの仲間ですが、鳥取県では、ダイセンミツバツツジとユキグニミツバツツジ、そしてこのコバノミツバツツジの3種類が分布

しています。コバノミツバツツジは、西日本のみに生育し、関東での生活が長かった私は、普通のミツバツツジは知っていたのですが、南部町に来て初めてこの花の存在を知りました。ミツバツツジの雄しべは5本で、これら3種は10本の雄しべを持つています。町内の林道で見かける多くの株が、コバノミツバツツジですが、葉っぱの特徴をよく観察すると、他のツツジも見つかるかもしれません。

■ギフチョウのシーズン

私は、この花が咲いている時、どうしても写真や映像に収めたいシーンがあります。それは、氷河期の生き残りとして残っている希少種の蝶、ギフチョウとのツーショットです。東北地方では、ギフチョウがカタクリの花などに訪れるのですが、自生しているカタクリが殆ど確認されていない南部町では、ギフチョウの栄養源はスミレの仲間やミツバツツジの蜜となります。過

去に数回、コバノミツバツツジにやってきたギフチョウを見たことがあります。動きが速くて、カメラで追うことが全く出来ませんでした。黄色と黒のトラ模様の翅が、ツツジのピンク色と重なった時、早春の柔らかい日差しの中で双方がより一層美しく映えていました。チャンスは1年に1、2週間だけ。今年こそは、是非花と蝶の組み合わせを記録として残せればと思っています。



雄しべは10本、根元に長毛が生えている

自然観察指導員 桐原真希

## 祐生出会の館【緑水湖畔】 インフォメーション

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

2月24日に西伯小学校3年生が、総合的な学習『南部町大好き』で、「板祐生」「祐生出会の館」について調べにやってきました。

南部町の名誉町民でもある板祐生(本名愈良=まさよし)がなにゆえ人々から尊敬される存在なのか、小学校・中学校で学習が始まっています。



3年生からの礼状